

第28回 森と花の祭典 みどりの感謝祭

感じよう みどりの恵みと木のぬくもり



毎年4月15日から5月14日までは、多くの人たちに緑について理解と関心を高めてもらおうともうけられた「みどりの月間」です。

森と花の祭典―「みどりの感謝祭」は、みどりの月間の期間中に全国各地で緑に親しむ各種緑化行事の締めくくりとして開催されています。

今年は5月12日に東京都千代田区イノホールで式典が開催され、5月12～13日の2日間にわたって東京都日比谷公園を会場に「みどりとふれあうフェスティバル」が開催されました。

今年28回目を迎えた「みどりの感謝祭」式典は、秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜り、衆議院議長、参議院議長など関係者約500人の参加のもと開催されました。

東京消防庁音楽隊の演奏と杉並区立桃井第四小学校合唱団の合唱のプロローグにはじまり、八王子森林パトロール隊の代表による開会宣言、野中農林水産大臣政務官の主催者代表挨拶に続いて、祭典の名誉総裁・秋篠宮殿下からお言葉を賜りました。

続いてみどりの文化賞の表彰や、緑の少年団・花いっぱい運動の代表に対する苗木と花の特別贈呈、東日本大震災復興緑化用苗木の贈呈、山火事予防ポスター用原画入賞作品の表彰が行われました。

式典終盤では平成31年全国植樹祭開催地・愛知県宮の森みどりの少年団と尾張旭みどりの少年団の代表が「私たちは、豊かな自然に感謝する気持ちを忘れずに、心をこめて緑を育て、未来に引き継いでいきます」と誓いの言葉を述べました。

式典終了後には、参加者が記念撮影をするなど、会場は穏やかな空気に包まれていました。

また、「みどりとふれあうフェスティバル」では、2日間で約3万人が来場し、親子連れなどが、様々な森の恵みを感じる出展の他、ツリークライミングや森林セラピー、森ヨガ、森のようちえん、木育などの体験プログラムを楽しんでいました。